

令和4年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

芥川高校がめざす学校像は『豊かな人間力とグローバルな視点で、自ら考え行動し、主体的に進路を切り拓く力を持った生徒を育てる学校』。

- 1 「自ら考え行動し、主体的に進路を切り拓く力」を持った生徒の育成
- 2 「グローバルな視点で考える力」を持った生徒の育成
- 3 「豊かな人間力」を持った生徒の育成

2 中期的目標

1. 自ら考え行動し、主体的に進路を切り拓く力を持った生徒の育成

(1) 学力の向上（授業力向上）

- ア：生徒の「好奇心が掻き立てられる授業」となるように、教職員がいつでも、どこでも、だれとでも相談できる環境づくりと組織的な取組みを推進する。
- イ：生徒に問いを発し、話し合う機会を持たせることで主体的、論理的に自己を表現する思考力、判断力を身に着ける。ICT等をより効果的に活用し、学習効果の可能性を追求していく。新型コロナウイルス感染症拡大下においても学習の歩みを止めないオンライン授業等において教員の負担を増やさず、生徒の学びが期待できるシステムの構築をめざす。
- ウ：観点別学習状況の評価（観点別評価）の活用により、生徒が自ら学ぶ力を高め、教員は評価と指導の一体化を実感する機会を得る。
- *授業アンケートの授業満足度は、今後も満足度80%以上を維持する。(R1:82.0% R2:82.3% R3:85.0%)

(2) 希望進路の実現

- ア：望ましい勤労観・職業観を持ち、主体的に進路を選択できる力を育むキャリア教育を推進する。
- イ：「学力生活実態調査」を活用し、一人ひとりの希望進路に応じたきめ細かい進路指導を行う。
- *生徒向け学校教育自己診断における進路指導への満足度90%以上を今後も維持する。(R1:89.2% R2:90.1% R3:90.1%)
- *進路希望の多様化にも対応し、令和6年度には希望進路達成率85%をめざす。(R1:81.8% R2:82.9% R3:84.6%)

2. グローバルな視点で考える力を持った生徒の育成

(1) 使える英語力の育成

- ア：高大連携等による「グローバル専門コース」の充実と、英語4技能の育成を図る。
- イ：英語によるコミュニケーションの成功体験を通して運用能力の向上を図る。その結果、生徒の英語に関する資格への関心が高まり、実用英語技能検定等の資格取得や英語学力調査で得点率向上をめざす生徒を増やす。
- *実用英語検定資格取得者を、令和6年度までには80人以上とすることをめざす。(R1:60人 R2:57人 R3:56人)

(2) 国際感覚の育成

- ア：交流生の派遣や受入れ等の国際交流を促進するが、新型コロナウイルス感染症拡大下において実施できない場合は、外部連携等の新しい取組みを創出する。
- イ：海外修学旅行等を推進するが、新型コロナウイルス感染症拡大下において実施できない場合は、異文化に触れる機会を創出する。
- *令和6年度には生徒向け学校教育自己診断における国際理解に対する肯定率80%をめざす。(R1:84.6% R2:78.7% R3:71.2%)

3. 豊かな人間力を持った生徒の育成

(1) 新型コロナウイルス感染症拡大の下、厳しい状況だからこそ他者へ思いを馳せられる with コロナの新生活様式を実践する。

(2) 体験学習の充実

- ア：保育園実習や高齢者施設実習等を通じて、福祉ボランティアに関する学びとキャリア意識の醸成を図る。
- イ：地域と連携した体験活動の充実を図る。
- *令和6年度には生徒向け学校教育自己診断における地域との関わりに対する肯定率80%をめざす。(R1:81.1% R2:73.2% R3:64.2%)

(3) 学校行事、部活動の振興

- ア：学校行事を地域等へ広く公開することで地元とつながり、生徒のシティズンシップを育む。
- イ：部活動の入部率及び定着率を高め、その活性化と効率的な運用により学習との両立を図る。
- *部活動加入率（6月集計）を毎年引き上げ、令和6年度には80%とする。(R1:77.1% R2:71.1% R3:72.5%)

(4) 規範意識の醸成

- ア：規範意識を共有し、全体指導から学年・学級指導、個別指導につながる段階的な指導を徹底し、その指導がめざすところを生徒に説明、理解させ、主体的にルールやマナーを守ることができるように導く。
- イ：生徒指導のみならず安全教育等あらゆる機会をとらえて規範意識の向上を図る。身の回りの人を尊重し、挨拶がしっかりとでき、時間を守ることができる生徒を育成する。
- *生徒向け学校教育自己診断における規範意識に関する設問の肯定率を、令和6年度には95%とする。(R1:93.1% R2:94.1% R3:94.0%)

(5) 人権意識の向上

- ア：すべての学校教育活動を通じて一人ひとりを大切に、大切にされる人権教育を推進する。
- イ：生徒と教職員がお互い、お互いを尊重し、共に学び、学校全体として人権意識を高める取組みを実施する。
- *令和6年度には生徒向け学校教育自己診断における人権教育に対する肯定率85%をめざす。(R1:84.4% R2:83.7% R3:84.0%)

4. 信頼される学校づくり（教員力と情報発信力の向上）

(1) 次世代を支える教員の育成とチームとしての教員力の向上

(2) 開かれた学校をめざした、学校情報の積極的な発信

(3) 中学生やその保護者に対する、芥川高校の魅力発信

- *生徒向け学校教育自己診断における教員の協力体制に関する肯定率を、今後も85%以上を維持する。(R1:82.8% R2:84.4% R3:86.1%)
- *保護者向け学校教育自己診断における情報発信に対する肯定率を、令和6年度には90%とする。(R1:82.7% R2:85.9% R3:82.4%)
- *学校説明会・オープンスクールへの中学生および保護者の参加人数を、令和6年度には1200人超をめざす。(R1:894人 R2:1125人 R3:1124人)

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

| 学校教育自己診断の結果と分析 [令和4年12月実施分] | 学校運営協議会からの意見 |
|--|---|
| <p>生徒アンケート結果より</p> <ul style="list-style-type: none"> ・質問全 24 項目中、前年度より肯定的回答率がアップした項目が 16 項目、ダウンした項目が 7 項目であった（1 項目は 1 人 1 台端末活用に関する新規の質問、以下の保護者アンケートと教職員アンケートについても同じ）。 ・14 項目について前年から 2 ポイント未満の小幅の増減であり、5 ポイント以上の変動があったのは 13.5 ポイントアップの「緊急事態発生時の対応の仕方」に関する質問のみであった。避難訓練と併せ、アンケート実施の直前にクイズ形式等を取り入れ工夫した防災学習を実施したことが肯定的に受け止められたと考えられる。昨年度アンケートでダウン幅が際だって大きかった（一昨年度比 18.3 ポイントダウン）「海外交流」に関する質問は、今年度も更に 3.6 ポイント肯定的回答が減少した。オンラインを利用したの交流、ビデオレターやカードの交換など形態を変更した新たな取組みを行ったが、3 年に及び新型コロナ感染症の影響により海外の交流校との行き来を経験していない生徒達の期待とは、依然として開きがあると考えられる結果であった。 <p>保護者アンケート結果より</p> <ul style="list-style-type: none"> ・質問全 22 項目中、前年度より肯定的回答率がアップした項目が 5 項目、ダウンした項目が 16 項目であり、厳しい結果となった。 ・9 項目について前年から 2 ポイント未満の増減であり、5 ポイント以上の変動があったのは 19.6 ポイント増加の「授業参観・行事への参加」のみであった。人数制限つきではあったが、保護者が来校し参観可能としたことで、一昨年度並みの肯定率まで戻すことができた。 ・生徒アンケートの肯定的回答・満足度の上昇と比較すると、様々な取組みについて保護者への説明や情報提供をより丁寧に行い理解を求める努力が必要であると考えられる。 <p>教職員アンケート結果より</p> <ul style="list-style-type: none"> ・質問全 38 項目中、肯定的回答率が 5 ポイント以上アップした項目が 18、ダウンした項目が 2 であった。そのうち 10 ポイント以上アップした項目が 7、ダウンした項目は 1 項目であった。 ・10 ポイント以上ダウンしたのは「海外交流」に関する質問で肯定率 68.9%、前年より 18.2 ポイントの大きなダウンである。担当教員やそれを支える教員の尽力により、上述した新たな取組みを行ったが、教員間での情報共有が不十分であった可能性がある。感染症対策に関わっての規制が社会全体として緩和されている状況下で、生徒・教員の中に「対面も含めた交流がもっとできるのではないか」という意識が広がっていることも考えられ、次年度の取組みについては検討を要する。 ・「進路選択の指導」「学校行事の工夫・改善」「緊急事態発生時対応の指導」の各項目で肯定率が 10 ポイント以上アップした。めざす学校像のキーワードである豊かな人間力、主体的に進路を切り拓く力を持った生徒を育てるための今年度の努力に、多くの教員が手応えを感じられた結果であると嬉しく思う。また、「教育活動の評価、計画」「教職員の意見の反映」「分掌、学年間の連携」についても 10 ポイント以上増加しており、自らが学校を運営する主体の一人であるという意識が更に高まっていると思われる点は心強い。 <p>生徒が満足できる授業づくりへの工夫は 93.4%の肯定率を得ている一方で、教員間での授業法の検討機会については 66.7%の肯定率である。個々のレベルでの意欲的な授業改善を、学校全体の授業力向上の取組みにつなげる取組みを充実させたい。</p> | <p>第1回学校運営協議会</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 開催日 令和4年6月27日（月） ② 学校運営協議会からの意見など <ul style="list-style-type: none"> ・学校経営計画の中期的目標について、以下の内容を評価する意見があった。 <ol style="list-style-type: none"> ① 1.（1）学力の向上のところで「生徒の好奇心が掻き立てられる授業」を第一に掲げて校長が教職員に発信していること ② 3.（4）規範意識の醸成（5）人権意識の向上等、一人ひとりを大切にすると同時に大切にされる教育活動を通じて、他者との付き合い方、コミュニケーションの経験を重視していること など ・ICTを活用した教育活動について、教科や科目によって相性の良さもあるが、効果的な活用方法をより一層検討してほしいとの要望があった。 ・進路指導部よりの報告に対し、新型コロナウイルス感染症の影響を受ける中であって、昨年度に続き多くの生徒が進路実現できたことを評価していただくとともに、理学系統に興味を持つ生徒が一定数おり、彼らの進路を支援することへの期待が寄せられた。 ・登下校時のマスク着用についてどのように指導しているかとの質問が委員からあった。それに対し、6月に入り文科省の通知で、熱中症防止を念頭に体育の授業や登下校では外してもよいとしているが、一方で感染症対策も万全に行う必要があり、生徒にはマスク着脱、マスクを外した時には会話を控えるなど、状況に応じた行動を呼びかけている旨、報告があった。 ・「生徒による授業アンケート」の項目について、賛成多数により原案が承認された。 ・部活の加入率について委員より質問があった。全体で 82.9%であり、コロナ前の水準に戻りつつあることが報告された。 <p>第2回学校運営協議会</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 開催日 令和4年11月29日（火） ② 学校運営協議会からの意見など <ul style="list-style-type: none"> ・国語・理科・情報の授業見学を行った。委員から「生徒と教員のやり取りで授業が進んでいて、生徒の頑張りが見られた」等の感想が聞かれた。 ・学校説明会で初めて生徒スタッフを前面に出した運営をおこなった効果について質問があった。参加した中学生・保護者には「本校生の学校での様子がよく分かった」と大変好評であったことが報告された。 ・学校経営計画の進捗状況で、遅刻指導について生活の振り返りをさせていないに個別指導する方法に改善したがなかなか減少に向かわないとの報告があった。 ・人権教育推進委員会や教育相談支援委員会での支援を要する生徒の情報共有、SCやSWとの連携協力についての報告に対し、委員から「SCが身近なことが大切」との助言があった。 ・部活動入部率や継続率の向上を掲げながら、1,2年生の部活動加入率が6月時点から11月にかけて減少していることへの質問があった。部活動に関して、他の委員から「今後増加するであろう大学の総合型選抜では、部活動の経験は重要と思う。部活動は大事にしてほしい」、「職場等で、人とうまく付き合う方法をどこで体得したかと尋ねるとやはり高校での部活である」等、部活動の意義を重視するよう複数の意見があった。 ・スクールミッション案について、賛成多数により原案が承認された。「スクールミッションを作り上げたプロセスを大事にすべき。話し合いの経過を残しておき、3年、5年と振り返ることで原点を確認できる」との助言や「学校教育自己診断やその他のアンケートで、スクールミッションに関する統計を取り経年変化を追っていくようにすると、今後、学校の取組をチェックしたり、芥川高を中学生にどのように発信できているかを確認できる」との助言があった。 <p>第3回学校運営協議会</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 開催日 令和5年2月22日（水） ② 学校運営協議会からの意見など <ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度学校評価の各項目について、以下の報告があった。 <ul style="list-style-type: none"> ・自学自習の取組は一部教科では進んだが全校的には不十分であった。進路の取組は充実させたが、生徒アンケートの満足度は微増にとどまる。 ・グローバルコース対象にオーストラリアとのオンライン交流やフランスとの手紙による交流、2年生全員に JICA 出前講座など取組みが充実できた。次年度はグローバルコース長を置き、行事の精選と再構築を図る。修学旅行は国内とし、多様性を学ぶことを目的に実施予定である。 ・保育園実習は何とか実施。高齢者施設は今後も難しいことが予想されるので計画からは外す。部活動の入部率は増加しているが、定着が課題。 ・保護者から今以上の学校情報の発信を求める意見あり。HP・メルマガ以外の SNS での発信を検討している。 <p>この報告に対し、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校経営計画において、全体の数値目標が高めに設定されていると感じる。そのため学校評価としては、目標に到達していない項目も見られるが、実際の数値は非常に高く、おおむね達成していると言えるのではないかと意見があった。 ・授業研修（特に若手に対する）が実施できていることは評価できる。ぜひ引き続き取り組んでほしいと来年度の学校経営計画の助言をいただいた。 ・進路に関して、近畿圏私立大学の入試動向についてのご教示と、それを踏まえて最後まで希望進路に挑戦する生徒を激励し増やしていければよいとの助言をいただいた。 ・行事の満足度が高く、先生方の工夫が奏功したのではないかと。オンライン学習が進んだ今こそ、人が集まって同じことを学ぶ価値を再確認する必要がある。今の高校生は、コロナでできなかったことを少しずつ取り戻そうとしていく世代であり、新高校1年生は中学で行事未経験者が多いからこそ行事を大切にしてほしいとの意見があった。 ・学校から保護者への情報提供について、中学校では学校便りなどのデジタル化を行った。その結果、保護者には届くようになったが、生徒には届きにくくなった。どのターゲットにどのような情報を送るのか、検討が必要であるとの助言があった。 ・令和5年度学校経営計画については、前年度からの変更点を中心に説明し承認された。 |

3 本年度の取組内容及び自己評価

| 中期的目標 | 今年度の重点目標 | 具体的な取組計画・内容 | 評価指標[R3年度値] | 自己評価 |
|----------------------------------|--|---|--|---|
| 1. 自ら考え行動し、主体的に進路を切り拓く力を持った生徒の育成 | 1) 学力の向上 ア 「好奇心が掻き立てられる授業」をつくり出すための、教職員が切磋琢磨できる環境づくり イ より効果的、効率的なICT 機器の活用とオンライン授業のための体制の構築 ウ 新指導要領の本格実施にむけて観点別学習評価を有効に運用する。 | ア・授業アンケートの振り返りによる授業改善 ・自分にはない部分を必ず一つ見出す教職員の相互授業見学を実施し、その長所を必ず伝える。 イ・日常業務の中でICT の活用やオンライン授業に関するアイデアを共有する機会を増やし、ストックしたものを利用したうえで研修等を実施する。 ウ・各教科の観点別評価規準を教科オリエンテーション等で生徒へ周知し向学心を高める。 ・自学自習力をつけさせるための週末課題を実施し、評価との関連性を診る。 | ア・生徒向け学校教育自己診断結果における教科指導への肯定率 75%以上を維持 [74.3%] イ・授業アンケートにおける授業満足度(興味・関心・知識・技能に関する生徒の意識に関する項目) 85%を維持 [85.0%] ウ・授業アンケートにおける授業の事前事後に必要な学習の実施率 85%をめざす [84.4%] | ア. 教員の学校教育自己診断でのわかりやすい授業づくりへの工夫の項目は2年連続 93%超の肯定率。10年経験者研修主催の研究授業・協議、個々の真摯な授業改善の取組みが生徒の肯定的な受け止めにつながったと考えられる。[77.6%] (○) イ. 平常の授業やオンラインでの講演会実施等のアイデアとノウハウは、ICT 活用推進部を核として共有・蓄積されている。活用度に個人差が大きく、興味はあるが苦手意識の強い教員への組織的なサポートの検討が必要である。[85.7%] (○) ウ. 観点別評価導入は、教務部が主催した複数回の研修の成果もあり円滑に行えた。教員の負担軽減と、指導と評価の一体化についての検討継続が今後の課題である。週末課題実施は一部教科にとどまり、全校的な取組みには至らなかった。[83.9%] (△) |
| | 2) 希望進路の実現 ア 望ましい 勤労観・職業観を持ち、社会で具体的に貢献する姿を心に描き、主体的に進路選択できる力を育むキャリア教育の推進 イ 個々の生徒の想いを受け止め希望進路に応じたきめ細かい進路指導 | ア・「憧れる存在をみつけよう」をコンセプトに、卒業生による進路講話やガイダンスを通して、社会に貢献する自分像をイメージできるようにする。 イ・対面での個別懇談等のみならずICT も活用し、一人ひとりきめ細かい進路指導を実施する。また、活動記録を適切に残し活用する。 ・外部教育産業を活用して、大学別進学ガイダンスの内容を各教科で共有し、指導の振り返り、計画に生かし、より実効性の高いものにする。 ・「進路のてびき」の有効活用や保護者向け進路講演会等で、早い段階で希望進路実現に向けた意識を高める。 | ア・生徒向け学校教育自己診断結果における進路指導(進路や生き方について考える機会の提供)への満足度 90%以上を維持 [90.1%] イ・生徒向け学校教育自己診断結果における進路情報提供への満足度 90%をめざす [87.4%] ・保護者向け学校教育自己診断結果における進路情報提供への満足度 85%をめざす [83.2%] ・希望進路達成率 85%をめざす [84.6%] | ア. 12分野で卒業生による進路講話を実施。希望者対象に、看護系大学・専門学校のガイダンスを新たに実施するなど取組みを充実させたが生徒全体の肯定的評価は増加しなかった。[87.9%] (△) イ. 担任や進路指導部による個別面談、改訂した「進路の手引き」を活用する進路説明会・進路 HR の充実を行ったが、生徒満足度は微増にとどまった。[88.2%] (△) ・春の保護者向け進路講演会は多数の参加があったが、その後は保護者をターゲットにした情報提供を増やせなかった。[79.9%] (△) ・就職希望者は全員第一志望で決定。希望進路達成率は 89.3% (◎) |
| 2. グローバルな視点で考える力を持った生徒の育成 | 1) 使える英語力の育成 ア 高大連携等により、「グローバル専門コース」を充実させ、実用性の高い英語力育成 イ 生徒の英語に関する資格への関心を高め、英語検定等の資格取得推進 | ア・グローバル専門コースにおいて、平常の授業との関連を密にし、高大連携による特別授業や留学生や大学生との交流などの充実を図るとともに、専門科目の SDGs 学習等の成果の発表の機会を設ける。 イ・オンライン上の英語力向上プログラムの活用や授業等を通じ、英語検定等の資格取得を奨励するとともに、グローバル専門コース選択生徒全員に英語学力調査の受験機会を与え、英語4技能を育成する。 ・グローバル専門コースの取組みをコース以外の生徒に広げていく。 | ア・授業アンケートにおけるグローバル専門コース選択科目の授業満足度 90%以上を維持 [92.7%] イ・英語検定等の資格取得者数 75人以上 [56人] | ア. 高大連携による特別授業や海外交流校とのオンライン交流、SDGs に関する講演会や学習成果の発表機会など、取組みが充実できた。[96.1%] (○) イ. [61人] (△) 第2回は校内実施なし。英検校内実施、グローバル専門コース生全員対象の GTEC 受検を実施したが、英検受検者数は昨年度から横ばい、資格取得の意欲喚起が課題である。 |
| | 2) 国際感覚の育成 ア 海外語学研修生の派遣や受け入れ等、国際交流の促進 イ 海外修学旅行等で異文化理解の機会をつくる。 | ア・語学研修の実施を目標とするが、感染症拡大等により実施できない場合、外国語指導員 (NET) や関係大学や関係機関の協力を得て生徒がオンラインでの活動を含む国際交流を体験する機会を創出する。 イ・海外の高校生を受け入れ交流を図るが、感染症拡大により、行事が実施できない場合、海外の文化に限らず、様々な文化理解を目標とした学習を実施し、日本に住む高校生としての国際感覚に根差したアイデンティティを育む。 | ア・国際交流プログラムに参加した生徒の満足度 85%以上 [未実施] 参考：令和元年度 87.0% イ・学校教育自己診断における異文化理解の取組みへの満足度 80%以上を維持 [71.2%] | ア. 語学研修は新型コロナ感染症の影響で実施を断念。交流校のミラニ高校とのオンライン交流、フランスの高校の日本語学習者とのビデオレターやカード交換などを通じて交流を充実させた。[100%] (○) イ. 海外修学旅行、海外高校生受け入れは、感染症の影響で実施できず。異文化理解をテーマに国内修学旅行を企画し、事前・事後学習や現地での活動を行った。京都外国語大学教授による講演や JICA 海外青年協力隊での体験についての講演、OFIX 国際理解教育支援サポーターによる講演により、国際理解・国際貢献について学ぶ機会を例年以上に設けた。目標達成には至っていないが、依然大きな制約がある中での肯定的評価 4ポイント増は取組み充実の成果と考える。[75.2%] (○) |

府立芥川高等学校

| | | | | |
|---|---|---|--|---|
| <p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">3. 豊かな人間力を持った生徒の育成</p> | <p>1) 感染症拡大下の健康管理および新生活様式の実践</p> <p>2) 体験学習の充実 ア 保育園実習および高齢者施設実習の充実</p> <p>イ 地域と連携した体験活動の充実</p> <p>3) 学校行事、部活動の振興 ア 地域とのつながりによるシティンシップの涵養</p> <p>イ 部活動の活性化を図る。</p> <p>4) 規範意識の醸成 ア 生徒が自主的にルールやマナーを守ることができるようにする。</p> <p>イ 生徒指導や安全教育等、あらゆる機会をとらえて規範意識の向上を図る。挨拶がしっかりとでき、時間を守る生徒を育成する。</p> <p>5) 人権意識の向上 ア すべての学校教育活動を通じて一人ひとりを大切にする人権教育を推進する。</p> <p>イ 生徒、教職員が共に学び人権意識を高める。</p> | <p>・with コロナの新生活様式を実践し、他者の幸せに思いを馳せ、仲間と共に健康で明るい学校生活を送れるよう指導する。</p> <p>ア・オンラインでの交流も視野に入れ、保育園及び高齢者施設実習の事前および事後指導を充実させ、福祉に対する意識をより高めるための学習機会とする。</p> <p>イ・地域主催の行事等に積極的に参加（オンライン上の参加も可）し、ボランティア活動や近隣中学校との部活動交流を通じて、地域を愛し、地域に愛される体験する機会を持つ。</p> <p>ア・学校行事への地域等関係団体の招待など地域や近隣施設との連携を深める。</p> <p>イ・入部率および継続率向上を図るとともに、近隣の学校や園、施設、団体との連携を深める。学校行事において部活動部員の活躍の場を設ける。</p> <p>ア・全ての教職員が「あくたベース（生徒指導編）」に基づいた統一した指導を行う。</p> <p>・スマートフォン等の指導においては時代に則したルールづくりと共に、情報モラルに関する学習を充実しマナーの遵守を図る。</p> <p>・あらゆる機会を通じて生徒に夢や生き方を語り掛け、一人ひとりかなくてはならない存在であることに気づかせる。</p> <p>イ・自らと身の回りの人を大切にするということがすべてにおいて優先するという日常的な指導の徹底と事前学習を踏まえたうえで交通安全指導や防災避難訓練、薬物乱用防止教室やコロナエチケット指導等、様々な機会を捉え、規範意識の向上を図る。</p> <p>・遅刻指導により、時間を守り、授業を大切にしている生徒を育てる。</p> <p>ア・身近にある人権課題を見逃すことなく、全教員が一貫性のある人権教育を推進する。</p> <p>・保健室での聞き取りや教育相談委員会での情報を活用し、スクールカウンセラーや専門機関等と連携して、生徒、教員一人ひとりを大切にするために教育相談をさらに充実させ、生徒の成長を支援する。</p> <p>イ・人権教育計画に基づき、教科や特別活動等、学校教育活動全般を通じて人権教育を実施し、一人ひとりを大切にする教育を実践する。</p> <p>・生徒のみならず、教職員も人権に関する研修を積極的に実施し人権意識の向上を図る。</p> | <p>・生徒向け学校教育自己診断結果における健康指導に関する肯定率85%以上を維持する。 〔85.7%〕</p> <p>ア・生徒向け学校教育自己診断結果における福祉ボランティア等に関する肯定率80%以上 〔71.2%〕</p> <p>イ・生徒向け学校教育自己診断結果における地域交流への肯定率80%以上 〔64.1%〕</p> <p>ア・体育祭や文化祭、授業発表会等への来場者数1500人以上〔非公認〕 参考：令和元年度2046人</p> <p>イ・6月時点の部活動加入率78%以上 〔72.5%〕</p> <p>ア・懲戒件数5件以下を維持 〔2件〕</p> <p>イ・生徒向け学校教育自己診断結果における規範意識への肯定率95%以上 〔94.0%〕</p> <p>ア・生徒向け学校教育自己診断結果における人権教育への肯定率85%をめざす 〔84.0%〕</p> <p>・生徒向け学校教育自己診断結果における気軽に相談ができた教員の存在の肯定率60%以上をめざす〔58.8%〕</p> <p>イ・教職員向け学校教育自己診断結果における人権教育への肯定率90%以上を維持 〔90.4%〕</p> | <p>・保健部が中心となって、仲間との学校生活を楽しみつつ、感染症を防ぐ行動を徹底するよう、継続的に呼びかけを行った。〔85.5%〕(○)</p> <p>ア・オンラインも含め高齢者施設実習は今年度も中止。保育実習は保育選択者以外の希望者にも対象範囲を広げた。目標達成には至っていないが、依然大きな制約がある中での肯定的評価4ポイント増は取組み充実の成果と考える。〔75.2%〕(○)</p> <p>イ・地域行事への参加や中学校との部活動交流は複数のクラブで複数回実施したが、地域でのボランティア活動など部活動以外の取組みが広がられなかった。〔66.6%〕(△)</p> <p>ア・生徒・教職員の感染症不安を極力抑えられる形態での実施を最優先したため、来場は保護者のみとし人数制限も厳しめに行った。〔652人〕(△)</p> <p>イ・1・2年生に限ると6月時点の部活動加入率は76.9%。目標には届かないが改善傾向にある。継続率の向上が課題として引き続き残った。〔74.5%〕(△)</p> <p>ア・懲戒件数は昨年度より増加したものの依然低い水準で推移している。「あくたベース」に基づき教員が一致して生徒指導を行える組織づくりに引き続き取り組む。〔5件〕(○)</p> <p>イ・目標は達成できなかったが、当初予定通り様々な機会を捉えて規範意識の向上を促した。遅刻指導については内容を見直し、生活の振り返りをより丁寧に行わせるようにした。〔92.2%〕(△)</p> <p>ア・目標にわずかに届かなかったが、定期的に関係する人権教育推進委員会を中心に全教員が人権課題を共有し、一貫性のある人権教育を推進できた。〔84.2%〕(△)</p> <p>・定期的に関係する教育相談支援委員会を中心に支援の必要な生徒について全教員が情報共有、スクールカウンセラーやSSWSV等とも連携協力し、個に応じた適切な対応がなされた。〔61.1%〕(○)</p> <p>イ・教員研修、生徒の特別活動での人権研修とも計画通り行えた。教員研修や人権教育推進委員会からの発信により教員の人権意識の高まりに伴い、問題事象に至る以前の「ちょっと気になる言動」への対応が多くなされていた。教員集団の変化は、生徒の「一人ひとりを大切にする」意識を高めるうえで効果的であったと考えられる。〔98.3%〕(◎)</p> |
|---|---|---|--|---|

府立芥川高等学校

| | | | | |
|--|--|--|--|--|
| <p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">4. 信頼される学校づくり（教員力・情報発信力の向上）</p> | <p>1) 次世代を支える教員の育成とチームとしての教員力の向上</p> <p>2) 開かれた学校をめざした、学校情報の積極的な発信</p> <p>3) 中学生やその保護者に対する、芥川高校の魅力発信</p> | <ul style="list-style-type: none"> 校務検討委員会や安全衛生委員会等を中心に、教職員の働き方改革の観点からも業務の円滑化・連携強化・平準化・効率化を図り、組織力の向上を図る。 「何かありますか」から「これやりますね」への移行を図り、教員お互いの声をかけ、助け合うTEAMになる。 次世代を支える教員が中心となって企画運営する、「もっと知りたい、もっと良くなりたい」がフランクに言える教員の自主研修の充実などによって教員力向上を図る。 メールマガジンやホームページ、グループウェア等を活用し、必要な学校情報をよりタイムリーに発信する。（ホームページの学校ブログで授業内での取り組みや行事の報告を頻繁に発信していく。） 学校新聞「芥川」を地域と学校をつなぐツールと捉え有効に活用するとともに、生徒の輝く姿を前面に出したコンテンツを用意し広報活動をより一層充実させる。 「芥川高校の生徒教職員の魅力」が詰まった校長ブログを積極的に発信していく。 | <ul style="list-style-type: none"> 月80時間を超える時間外勤務教職員の延べ人数の減少 〔延べ47名〕 生徒向け学校教育自己診断における、教員の協力体制に関する肯定率80%以上を維持 〔86.1%〕 保護者向け学校教育自己診断結果における家庭への情報提供に関する肯定率85%をめざす 〔82.4%〕 オープンスクールおよび学校説明会への参加者コロナ感染拡大を防ぐ上での最大人数である1100人を維持する。 〔1124人〕 年間80本以上 | <ul style="list-style-type: none"> 複数の分掌が業務の軽減・効率化を提案し取り組んだが、一方で行事の充実や部活動振興等の要素もあり、時間外勤務の削減は実現しなかった。〔延べ60名〕（△） 次世代を支える教員が中心となって企画運営する自主研修は定期的実施され、チーム力の向上にも貢献している。教員向け学校教育自己診断における分掌・学年間の連携に関する肯定率は20ポイント以上上昇した。教職員間の風通しをさらに良くし同僚性を高めることで、学校の教育力の向上と業務の円滑化を図りたい。〔87.2%〕（○） 保護者への連絡事項についてはメールマガジンによりこまめに発信できたが、保護者からは普段の学校の様子についての情報提供が十分でないとの声や、SNS等による情報提供を求める声があった。〔80.6%〕（△） 進学フェアや高槻地区府立高校合同説明会が開催されたが、オープンスクールおよび学校説明会にも想定した最大人数に近い参加があった。生徒が当日の運営に参加する形態に変更し、来場者アンケートでは生徒の活躍する姿が見られて良いと公表を得た。〔1096人〕（○） 校長ブログは84回発信。（○） |
|--|--|--|--|--|